

1976・1 NO.106 Vol.10 NO.1

●昭和50年11月20日印刷

●昭和51年 1月 1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

塚本雅啓／松尾定行／芦原 伸

佐藤礼子

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

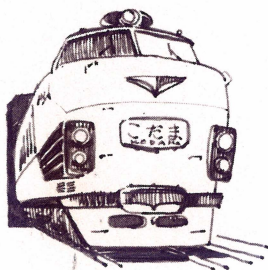
(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6

日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京82820番

●印刷所 凸版印刷株式会社



1976年は 日本の鉄道が新時代に向かって躍進する意義ぶかい年——。動力近代化が完了し蒸気機関車の煙は郷愁の彼方へと消え 新幹線を主軸とする近代列車網が日々に広がってゆく。欧米先進国でも21世紀めざして鉄道近代化が急ピッチで進んでいるが 狭い国土を高速列車がひんぱんに走る日本では騒音公害を追及する声も強く その前途はきびしいようだ。日本と海外の新しい鉄道の姿を1～2月号の連続特集でご紹介しよう。

● 目次 特集●新時代の鉄道<第1部>

- 7 レールウェイ・レビュー 国鉄の新生に期待する
8 ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外の鉄道の動き)

—— 特集 新時代の鉄道 ——

ドキュメント★列車追跡①ワイド版

- 11 特急日本縦断^(前編)
西鹿見島→長野 種村直樹／井上広和／荒川好夫

- 41 国鉄の新しい車両(旅客車)
振子式381系特急形電車／485系特急形電車／581・583系特急形電車／181系特急形気動車／24系25形客車

- 52 新幹線電車おいたちの記 井上 等

- 58 天険‘碓氷峠’を征服した鉄道技術 北村 亨

特別企画●体験試乗ルポ

- 63 振子電車は走る 高田隆雄／山之内秀一郎
竹島紀元／荒川好夫

●‘名列車’誌上リバイバル①

- 76 信濃路をひた走るくしのの 松崎正治

- 83 近代の旅客車 加藤 亮

●新春随想

- 88 ‘ポッポヤ’になりそこねた男のたわごと 岡 壽麿

●名作リバイバル

- 89 特急形電車の発達 星 晃

- 107 海外の鉄道近況(前)ヨーロッパ 山之内秀一郎

117 トップ・アングル

- 119 レールファン・ノートから⑤地図と時刻表 本島三良

●新連載

- 123 路面電車再発見① 日本路面電車同好会

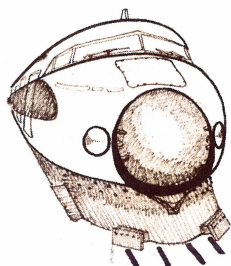
- 136 ‘台車’質疑応答

- 138 ある先覚者の軌跡をたどる④ 伊藤東作

- 140 梅小路蒸気機関車館のフェスティバル 山村定雄

120 ブルー・トレイン

- 122 魚眼／新聞記事ざっくばらん／ワイドレンズ／鉄道友の会だより
／R J クイズ／ジャーナル編集室／次号予告／乗務員室



国鉄の蒸気機関車が営業路線から50年12月に 入換用も51年1月なかばに消えることがついに決定した。空前の規模となった‘スト権スト’の影響で実際には多少おくれそうだが この冬のさなかに 103 年の生命を閉じるであろうことは明らかである。国鉄の長年の悲願であった動力近代化は実を結んだが これを活用する施設や営業面の近代化合理化のおくれをいかに進めるかが 今後の大きな課題であろう。今こそ労使協調して 新しい鉄道づくりに努力してほしいと思う。

臨時増大号

定価480円 千40円

● 目 次 特集●新時代の鉄道〈第2部〉

- 7 レールウェイ・レビュー 悲しい詐欺事件
- 8 ニュース・ファイル (国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)
- 13 車両基地 (国鉄動力車の新製・改造・転属・廃車)

特集 新時代の鉄道

ドキュメント★列車追跡②ワイド版

15 特急日本縦断(後編)

長野→東京→網走

檀上完爾／種村直樹／井上広和
荒川好夫／白井朝子／小野純一

41 国鉄の新しい車両(機関車)

EF 66形直流機関車／EF 81形交流直流機関車／ED 75₇₀₀形交流機関車／DD 51形・DE 10形ディーゼル機関車

松田清宏／永瀬和彦

50 国鉄貨車の近代化

飯島 寛

55 私鉄車両の近代化

編集部

58 ‘サイリスタ・チョッパ制御’小話

大塚和之

63 国鉄窓口の近代化を見る 種村直樹／井上広和

72 RJ技術解説シリーズ⑩マルスの端末装置

中田広志

★海外の鉄道近況②

78 アメリカ

木村 耕

89 ソビエト連邦と共産圏諸国

梅村元之助

●‘名列車’誌上リバイバル

100 伝統に輝く名特急<富士> (その1 戦前)

種村直樹

☆レールウェイ・トピックス
電車特急 <つばさ> 登場!

小野純一

132 弘南鉄道の近況

日本地方私鉄研究会

107 レールファン・ノートから⑥遠い旅 身ぢかな旅

本島三良

116 トップ・アングル

●路面電車再発見②

118 西日本鉄道 福岡市内線／北九州線

日本路面電車同好会

126 ヨーロッパの鉄道と列車の旅②⑤電気機関車-3

山之内秀一郎

132 「台車とわたし」の記事に寄せて

山本利三郎

108

ブルー・トレイン

ワイドレンズ／鉄道友の会だより／魚眼／新刊紹介／新聞記事ざっ
ぱらん／伝言板／タブレット／ズームレンズ／R J クイズ／ジャー
ナル編集室／次号予告／乗務員室

表紙／特急<富士> 奮進!(20系時代) カメラ・佐藤友則

1976・3 NO.108 Vol. 10 NO.3

●昭和51年 1月20日印刷

●昭和51年 3月 1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

塚本雅啓／松尾定行／芦原 伸

佐藤礼子

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

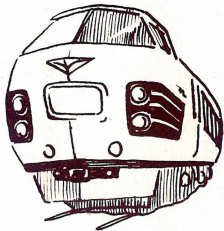
(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6

日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京82820番

●印刷所 凸版印刷株式会社



人間社会は日々に進歩発展してゆく。19世紀以降 日常生活に不可欠になった交通機関の発達とはとくにめざましく かつて鉄道の主動力であった蒸気機関車は第2次大戦後 世界各国で第一線をひき 新しい動力車の時代がおとずれた。しかし鉄道の動力近代化の歴史は遠く19世紀の後半 石炭に代わる新しい動力源として電気が考えられた時代にさかのぼる。そして戦後 エネルギー資源の確保と新しい鉄道への脱皮を目的に 世界的に動力近代化が急がれたのである。日本では1958年(昭33)に動力近代化委員会が発足してこの課題と正面から取り組み 今年 ほぼ予定どおり電化・ディーゼル化を完了した。この大事業の陰に12月24日 103年を走りつづけた国鉄の蒸気機関車は本線上から永遠に姿を消していった。

● 目次 特集●国鉄の動力近代化

- 7 レールウェイ・レビュー 国鉄値上げ案の疑問
8 ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)
14 車両基地(国鉄動力車の新製・改造・転属・廃車)

特集 国鉄の動力近代化

廣田尚敬作品集①

15 美しき鉄路の鼓動

国鉄の動力近代化

- 23 1. 国鉄の動力近代化 西村重雄
31 2. 動力近代化の効果 名和博毅
35 3. 運転業務からみた動力近代化 浅野幸夫
40 動力近代化の陰に 山之内秀一郎
45 セミ鉄道ファンの戦後アルバム① 黒岩保美

ドキュメント★列車追跡③ワイド版

- 55 動力近代化第一号 四国の鉄道を走る
種村直樹／荒川好夫

- 70 海外へ雄飛する日本の技術 三浦克之／竹内 崇

●‘名列車’誌上りバイバル

- 76 伝統に輝く名特急<富士> (その2 戦後) 種村直樹

- 82 明治の代表的蒸気機関車 久保田 博

- 93 雪の挽歌(蒸気機関車の最期) 編集部

- 94 1. 夕張線を走った最後のSLたち

- 96 2. 最後のSL旅客列車

- 102 トップ・アングル

- 124 レールファン・ノートから⑦忘れかけた地点 本島三良

●路面電車再発見③

- 114 京都市交通局／東京都交通局 日本路面電車同好会

- 122 西鉄大牟田線5000系新車 不老金之助

- 126 ある先覚者の軌跡⑤水戸鉄道 伊藤東作

- 106 ブルー・トレイン

- 112 ワイドレンズ／鉄道友の会だより／魚眼／新刊紹介／新聞記事ざっくばらん／伝言板／タブレット／ズームレンズ／RJKイズ／ジャーナル編集室／次号予告／乗務員室

定価480円 円40円

表紙／特急<やまばと>快走！

カメラ・廣田尚敬

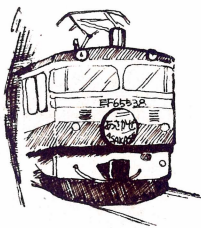
- 昭和51年 2月20日印刷
- 昭和51年 4月1日発行
- 編集・発行者 竹島紀元
- 編集スタッフ
- 塚本雅啓／松尾定行／金子俊夫
- 佐藤礼子
- アートディレクト 岡田徹也
- 発行所

(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6
日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京82820番

●印刷所 凸版印刷株式会社



日本の鉄道の“戦後”を語るとき昭和30年代に展開された華麗かつ激動の歴史を忘れることはできない。とくに国鉄の場合 戦争中の酷使で荒廃した巨大な施設の復興が 新技術の開発と近代化というかたちで進められたが その中心となったのが ‘動力近代化’ であった。新性能電車の登場で始まり ‘こだま形’ 特急電車はじめ各種の近代電車のあいつぐ誕生 交流電化の開発 実用化をへて この年代の終期には世界に誇る新幹線が生まれた。一方 液体式気動車の発達 はローカル線の旅客輸送近代化を達成したばかりでなく ディーゼル特急・急行網を全国に張りめぐらした。また標準系列の新鋭電気機関車・ディーゼル機関車もそろい 客貨輸送の近代化も急速に進んだ。

このように ‘動力近代化’ が萌芽し開花した昭和30年代の鉄道をふり振り返り 鉄道が近代化してゆくすがたを具体的にみつめようというのが 今月の特集である

目次 特集●〈あさかぜ〉から新幹線まで

- 7 レールウェイ・レビュー 寒さと雪への備え
 - 8 ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)
 - 14 車両基地(国鉄動力車の新製・改造・転属・廃車)
 - 15 廣田尚敬作品集②美しき鉄道の鼓動
- ### 映える

—— 特集 〈あさかぜ〉から新幹線まで ——

- 25 ‘昭和30年代の鉄道’誌上再現 編集部
- 42 年表でみる昭和30年代の鉄道
- 44 昭和30年代に消えた名機C51 鈴木武夫
- 46 ‘36・10’白紙ダイヤ改正 優等列車一覧 編集部
- 51 昭和30年代の電気機関車の発達 澤野周一
- 58 昭和30年代の旅客車の発展 星 晃
- 75 セミ鉄道ファンの戦後アルバム② 黒岩保美
- ‘名列車’誌上リバイバル⑭
- 83 山陽路に散った〈はと〉 種村直樹

- 91 雪に逝く(カラーグラフ) 白井朝子
- 97 終焉近づく17m国電
- 路面電車再発見④
- 98 仙台市交通局／東急世田谷線 日本路面電車同好会
- 107 トップ・アングル
- 109 世界の時刻表 安井義彦
- 115 レールファン・ノートから⑧機関車の本 本島三良
- 123 ヨーロッパの鉄道と列車の旅②⑥ 山之内秀一郎
- 電気機関車(4)
- 116 ブルー・トレイン
- 122 ワイドレンズ／ズームレンズ／魚眼／新刊紹介／新聞記事ざっくり／伝言板／タブレット／鉄道友の会だより／R J クイズ／ジャーナル編集室／次号予告／乗務員室

表紙／未電化幹線のホープ DD51 カメラ・廣田尚敬

特大号 特価 550円 〒60円

●昭和51年2月23日印刷

●昭和51年4月3日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

松尾定行／塚本雅啓

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

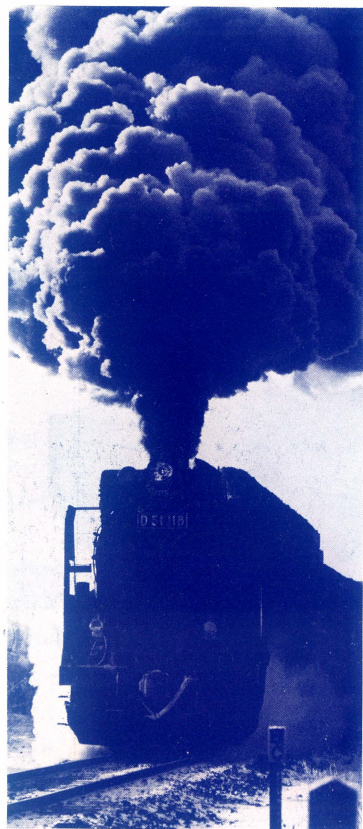
(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6

日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京9-82820番

●印刷所 凸版印刷株式会社



●目次 蒸気機関車の最後

——折込み付録——

5 **C57 135** 写真 廣田尚敬

8 **C57 135** 形式図 岡田徹也

——カラー・グラフ——

11 散 華 江坂光守

——最後のヒーローC57 135の軌跡——

横山 隆／増田 泉
海老原美宜男／福村 敏

——フォト・ドキュメント——

19 終 曲 廣田尚敬

昭和50年12月 雪の原野に消えたファイ
ナル・トレイン その感動のカメラ・ルポ

——なつかしの名場面集——

歴 程

59 ①C62重連 急行〈ニセコ〉 荒川好夫

69 ②各地のSL 10年間の記録

——読みもの——

103 日本の蒸気機関車 編集部

——本格的国産化から60年のあゆみ——

108 さようなら座談会

明日でSLも最後という晩に…

111 蒸気機関車とともに歩んだわが半生 山上良知

116 鎮魂歌 わが生涯の蒸気機関車 竹島紀元

表紙／走りぬいたC57 135 カメラ・廣田尚敬

室蘭本線・栗山―栗丘間で S.50.12.13

1976・5 NO.111 Vol.10 NO.6

●昭和51年 3月20日印刷

●昭和51年 5月 1 日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

金子俊夫／塚本雅啓／松尾定行

佐藤礼子／宮原正和

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

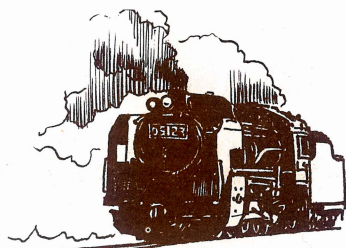
(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6

日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京 9-82820番

●印刷所 凸版印刷株式会社



戦後の日本国鉄の悲願であった‘動力近代化’は完了したが 未来へと生きつづけなければならない鉄道の前途はきびしい。近い将来の展望としては電化の延伸とこれにともなうディーゼル運転から電気運転への切替えがあり また 動力近代化初期に誕生した車両のモデルチェンジの必要も生じつつある。

さらにエネルギーの有効使用の見地から 全く新しい動力方式の開発も21世紀の鉄道づくりをめざして進められている。この未来の鉄道の主役は超高速列車であろうが 日本の場合 公害の点で社会の強い批判をあびるであろうことは想像にかたくない。速いだけが能ではないというスピード否定論も一部の識者のなかには根強くあり 技術哲学の必要性も叫ばれることであろう。SLを当面の対象とする古い鉄道施設の保存問題 さらには技術の進歩と人間生活の調和について 解決してゆかねばならない深刻な問題が 私たちの前に山積している。

目次

特集 ● 動力近代化の将来／SLの動態保存

- 7 レールウェイ・レビュー 国鉄総裁の辞任
- 8 ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)
- 14 国鉄の蒸気機関車ついに全廃
廣田尚敬作品集③美しき鉄路の鼓動
- 15 駆ける

特別企画

- 22 20系ブルー・トレイン<銀河>の旅
伊藤東作／井上広和

—— 特集1 動力近代化の将来 ——

- ★新しい鉄道への提言
- 30 動力近代化は自然にかえれ 岡 壽麿
- 37 動力近代化の今後 岡部道雄／加藤 亮

特別企画

- 46 昭和30年代の私鉄と路面電車 吉川文夫
- 61 セミ鉄道ファンの戦後アルバム③ 黒岩保美

—— 特集2 SLの動態保存 ——

- 68 座談会 SL動態保存の諸問題について
久保田 博／白井 昭／青木栄一
- 75 C11227復活への旅路 松尾定行
- 81 大井川鉄道C11227撮影の手引き 白井 昭
ドキュメント★列車追跡④
- 84 183系に衣がえした臨時特急<白根>
種村直樹／R G G
- 92 RJ技術解説シリーズ⑩ PS23形パンタグラフ 松田清宏
- 94 トップ・アングル
- 101 レールファン・ノートから⑨ 冬のそぞろ歩き 本島三良
- 路面電車再発見⑤
- 110 南海電鉄大阪軌道線／京阪電鉄京津線／岡山電気軌道
日本路面電車同好会
- 118 ヨーロッパの鉄道と列車の旅②⑦
電気機関車(5) 山之内秀一郎
- 124 ある先覚者の軌跡をたどる 伊藤東作
- 102 ブルー・トレイン
- 108 ワイドレンズ／鉄道友の会だより／魚眼／新刊紹介／新聞記事
ざっくばらん／伝言板／タブレット／ズームレンズ／R Jク
イズ／ジャーナル編集室／次号予告／乗務員室

定価 480円 〒60円

表紙／湘南電車の顔

カメラ・廣田尚敬

●昭和51年4月20日印刷

●昭和51年6月1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

金子俊夫／塚本雅啓／松尾定行

白井朝子／宮原正和

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

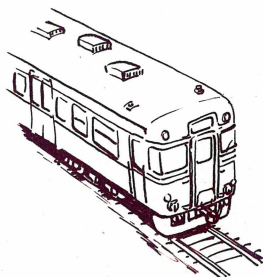
(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6

日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京9-82820番

●印刷所 凸版印刷株式会社



膨大な赤字をどう解消して健全な運営と再建をはかるか——？赤字問題は日本国鉄がつかえている深刻な事柄である。赤字対策としていつもまず話題にのぼるのがローカル線。マスコミを通して一般社会には「ローカル線＝赤字線」と単純に受けとられているきらいもある。その結果ローカル線は国鉄財政を圧迫する根源との誤解さえ生まれ赤字ローカル線は早急に廃止すべきだという考え方も強いようだ。実際にローカル線の大部分が大きな赤字をかかえておりたとえ沿線住民の生活に不可欠な公共的性格が強くて大局的見地から廃止を唱える人も少なくない。

しかしローカル線の実態を知らずして漠然と‘赤字線’というイメージだけで論じるのは危険である。ところが私たちがこの問題を取り上げようとしてまず驚いたのはローカル線という明確な定義すら無いことであった。赤字線の問題はさておきローカル線の実態を解明する最初の手がかりとして編集部ではローカル線をアトラダムに5つの特色にわけて考えてみることにした。

目次

特集●ローカル線5つの顔

- 7 レールウェイ・レビュー 国鉄職員の接客態度
- 8 ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)
- 13 車両基地(国鉄動力車の新製・改造・転属・廃車)

特集 ローカル線5つの顔

- カラー・グラフ
- 15 ローカル線の詩 江波 洸
- 23 国鉄のローカル線 その意義と問題点 青木栄一
- 30 国鉄経営からみたローカル線問題 所沢熙夫
- 現地ルポ ローカル線の素顔を探る
- 33 その1 御殿場線栄枯盛衰小話 伊藤東作
- 37 その2 雲出ずる美杉の里と名松線 松尾定行
- 42 無人駅のイメージアップ 後藤寿之
- 44 資料・線区別にみた変遷と現状一覧 編集部
- 52 日本鉄道建設公団の組織と仕事 種村直樹
- 61 天龍・旧国・飯田線 小野純一／山本忠史
- ドキュメント★列車追跡⑤
- 66 陰陽連絡くちどり1号 塚本雅啓／荒川好夫
- 74 八高線小宮駅・イラストルポ 安達義寛

- 77 SL終焉の日に 江坂光守
- 88 旅路の果て
- ☆レールウェイ・トピックス
- 90 大阪市交通局‘号線カラー化’すすむ 山村定雄
- 91 武蔵野南線が開通 編集部
- 92 神戸市営地下鉄用1000形がデビュー 編集部
- 93 上信電鉄に新車が誕生 福田宏之
- 96 SL運転を再開した西武鉄道山口線 寺門邦夫
- 94 RJ技術解説シリーズ 踏切遮断機のしくみ 編集部
- 97 トップ・アングル

●路面電車再発見⑥

- 110 富山地方鉄道富山市内線・射水線／加越能鉄道高岡軌道線 日本路面電車同好会
- 117 ヨーロッパの鉄道と列車の旅(28) 山之内秀一郎
- 電気機関車⑥

- 124 鉄道ジャーナル'76-1～6月号 さくいん

- 101 ブルー・トレイン

- 108 ワイドレンズ／魚眼／新刊紹介／新聞記事ざっくばらん／伝言板／タブレット／ズームレンズ／RJクイズ／こちらジャーナル編集部次号予告／乗務員室

定価 480円 円60円

表紙／日本のどこかで

カメラ・江坂光守

1976・7 NO.113 Vol.10 NO.8

●昭和51年 5月20日印刷

●昭和51年 7月1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

金子俊夫／塚本雅啓／松尾定行

白井朝子／宮原正和

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

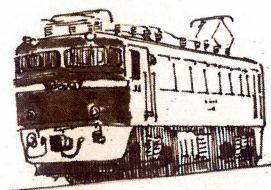
(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6

日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京 9-82820 番

●印刷所 凸版印刷株式会社



特急の夜行運転は戦前に〈富士〉〈桜〉の例があるが、東京と下関あるいは長崎を結ぶため運転時刻が深夜にまたがらざるをえなかったケースであり、夜行を主体とした特急は戦後の東京―九州「直行」列車〈あさかぜ〉が初めて、昭和31年(1956)のことであった。

関西地区を深夜に走るという画期的な構想で生まれた〈あさかぜ〉が予想以上の好評を博し、順調に成長をつづけたことが、現在の全国的な寝台特急網形成への発展につながったと考えることができる。社会の高度成長という裏づけがあったとはいえ、この20年間の寝台列車の成長発展は「長距離輸送」に活路をもとめる国鉄に大きなメリットとなったばかりでなく、利用者への素晴らしい贈物でもあった。この間、〈あさかぜ〉はブルー・トレインへと変身し、その成功を受けて相次いで登場したブルー・トレイン群は20系から14系・24系さらに「2段ハネ」へと飛躍的な発展をとげつつある。〈あさかぜ〉に代表されるブルー・トレインの歴史は、国鉄の長距離旅客輸送の近代化発展のあゆみでもあったといえる。

目次 特集●特急〈あさかぜ〉とブルー・トレイン

7 レールウェイ・レビュー ある新線開通

8 ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)

14 車両基地(国鉄動力車の新製・改造・転属・廃車)

—— 特集 特急〈あさかぜ〉とブルー・トレイン ——

15 はるかなる旅立ち

永崎祐之

ドキュメント★列車追跡⑦

24 〈あさかぜ〉は博多をめざす

檀上完爾／宮原正和

河野 豊／白井朝子／井上広和

52 〈あさかぜ〉誕生秘話

深水宗孝

‘名列車’誌上りバイバル⑤

56 夜行特急第1号〈あさかぜ〉の20年—その1 竹島紀元

67 ブルー・トレインの機関車と運用

太田詔三

79 夜の鉄路を彩る青いスターたち

編集部

RJ技術解説シリーズ⑬

92 ブルー・トレインの電源車

田中 宏

96 ダイヤからみたブルー・トレイン

佐々木康治

104 転換期に立つブルー・トレイン

田崎乃武雄

106 夢の豪華寝台特急

種村直樹／岡田徹也

114 トップ・アングル

☆レールウェイ・トピックス

115 動き始めた相模鉄道のいずみ野線

117 レールファン・ノートから⑪ SL なきあとの焦点

本島三良

126 ヨーロッパの鉄道と列車の旅(29)

電気機関車⑦

山之内秀一郎

●路面電車再発見⑦

132 土佐電気鉄道軌道線／伊予鉄道松山市内線

日本路面電車同好会

138 ある先覚者の軌跡をたどる⑦ 青梅鉄道

伊藤東作

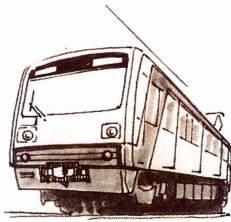
118 ブルー・トレイン

124 ワイドレンズ／新刊紹介／魚眼／ズームレンズ／新聞記事ざっくばらん／タブレット／RJクイズ／次号予告／乗務員室

表紙／星影の鉄路(下り〈あさかぜ〉1号)

カメラ・永崎祐之

●昭和51年 6月20日印刷
●昭和51年 8月 1日発行
●編集・発行者 竹島紀元
●編集スタッフ
金子俊夫／塚本雅啓／松尾定行
白井朝子／宮原正和
●アートディレクト 岡田徹也
●発行所
(株)鉄道ジャーナル社
〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6
日産ビル 電話03(264)1891・1892
振替口座 東京 9-82820番
●印刷所 凸版印刷株式会社



鉄道が好きな人だったら 電車の最前部に乗って運転士のハンドル操作を熱心に眺めたり そのハンドルを自分も一度は握ってみたい…と思った経験が必ずあるにちがいない。国鉄特急電車の運転台は見る機会が少ないが 路面電車から本線の高速電車まで 日本人にとって電車とその運転台は身近な存在でありファンにとっては魅力的な対象であろう。

近年 国鉄の動力車は機構が高度化し 複雑な電気回路や自動化機構がとりいれられて 規格化・標準化された外観や性能とともに パラエティーの楽しみが少なくなってきた。そして私たちが車両をみる場合 内部に秘められたメカの特色を知らないかぎり その車両を理解することが不可能になってきているのも事実である。日本の鉄道の主力である電気車両——とくに電車の走るメカニズムを運転機構に重点をおいてやさしく紹介することにより 鉄道誌がとかく避けて通りがちだったメカニズムのカベに挑戦したのが本号の特集である。

目次 特集●電車の運転とメカニズム

- 7 レールウェイ・レビュー 新幹線の乗客10億人
8 ニュース・ファイル (国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)
14 車両基地 (国鉄動力車の新製・改造・転属・廃車)

特集・電車の運転とメカニズム

- 15 多摩川の流れと16の鉄路 荒川好夫
23 電車のメカニズム 編集部
45 急行〈ときわ4号〉を運転する 編集部
54 電車の顔アラカルト 永野晴樹
60 あすの羽ばたきをめざして 檀上完爾／永崎祐之
67 もう一つの時刻表 運転曲線 倉本建二
72 長崎・佐世保線電化開業せまる 倉地英夫
79 周遊券20年のあゆみ 種村直樹
84 遠い郷愁 三沢通博
93 C57135原野からの回帰／路面電車が去っていった日 真船直樹
96 トップ・アングル
101 レールファン・ノートから⑫ 街路の列車 本島三良
●路面電車再発見⑧
109 長崎電気軌道 日本路面電車同好会
117 ヨーロッパの鉄道と列車の旅③⑩ 山之内秀一郎
イギリスの旅(1)
102 ブルー・トレイン
108 ワイドレンズ／魚眼／ズームレンズ／新聞記事ざっくばらん／伝言板／タブレット／R J クイズ／次号予告／乗務員室

1976・9 NO.115 Vol.10 NO.10

●昭和51年7月20日印刷

●昭和51年9月1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

金子俊夫／塚本雅啓／松尾定行

白井朝子／宮原正和

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

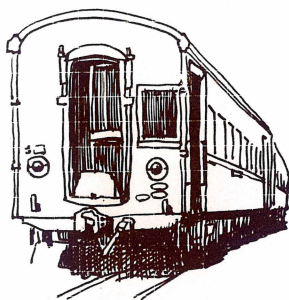
(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6

日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京9-82820番

●印刷所 凸版印刷株式会社



かつて幹線上の主要都市を結ぶ優等列車として存在した長距離普通列車は 電化の進展や近代車両の登場にともなう特急・急行列車の増発により 次第に姿を消してゆき 今では細々と通勤・通学輸送や地域内利用者の輸送にあたっているにすぎない。始発駅から終着駅まで乗り通すには あまりにも時間がかかりすぎ 追い越してゆく特急や急行とは 到達時間において比較することすら無意味である。しかし だからこそ長距離普通列車には 速さを至上とする生活のリズムに慣れきってしまった現代人が もはや忘れかけているなつかしい旅情といったものが残されていると言えるのではないか…… 今月号では このような観点から長距離普通列車をとらえ ルポを中心にドン行の味をそこはかなく味わっていたような特集を組んだ。

定価 480円 〒60円

目次 特集●長距離ドン行列車

- 7 レールウェイ・レビュー 地元に着した駅へ
- 8 ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)
- 14 車両基地(国鉄動力車の新製・改造・転属・廃車)

特集 長距離ドン行列車

- 15 紀伊半島をめぐる〈南紀〉 白井朝子／塚本雅啓
- 23 生きている長距離普通列車 編集部
- 30 長距離ドン行きのうきょう あす 斉藤研二
- ドキュメント★列車追跡⑦
- 35 さいはてドン行のりつき660.8km 松尾定行
- 47 長距離ドン行の系図 種村直樹

特別企画 長崎・佐世保電化と特急くかもめくみどり

- 56 西海のエル特急くかもめくみどり 竹島紀元／白井朝子
- 59 試運転 くかもめ 試乗記 深水宗孝

★レールウェイ・トピックス

- 55 さっぽろの‘新しい顔’登場! 編集部
- 71 大阪市交通局 新30系 下間仲和
- 72 阪急電鉄宝塚線用6000系 山村定雄
- 75 ザイル国CFMK鉄道ものがたり 瀧見昇光
- ‘名列車’誌上りバイバル⑬
- 84 夜行特急第1号くあさかぜの20年—その2 編集部
- RJ技術解説シリーズ⑬
- 94 鉄道車両の冷房装置 井出 盛
- 98 トップ・アングル
- 101 レールファン・ノートから⑬ 運転室便乗 本島三良
- 路面電車再発見⑨
- 110 鹿児島市交通局/熊本市交通局 日本路面電車同好会
- 117 ヨーロッパの鉄道と列車の旅③① 山之内秀一郎
- イギリスの旅(2)
- 102 ブルー・トレイン
- 108

映画“蒸気機関車ドキュメンタリー・シリーズ”／魚眼／ズームレンズ／新聞記事ざっくばらん／伝言板／タブレット／ワイドレンズ／RJクイズ／ジャーナル編集室／次号予告／乗務員室

表紙 西海のエル特急 くかもめ カメラ・白井朝子

晴れの上りくかもめ2号…この上りくかもめ2号だけはくみどりを併結せずくみどりを編成を肥前山口から前位増結車としてくかもめの単独運転になっている。佐賀駅での祝賀式にそなえて美しく飾りつけられたクロ481形

●昭和51年8月20日印刷

●昭和51年10月1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

金子俊夫／塚本雅啓／松尾定行

白井朝子／宮原正和

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

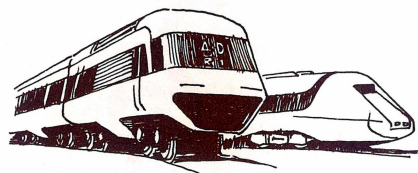
(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6

日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京9-82820番

●印刷所 凸版印刷株式会社



つい先ごろ大口キセル犯の摘発が新聞をにぎわした。罰を受けるのは当然だが 一方で顔パスや職務パス・優待パスがまかり通り 出札自動化など利用者には不便な省力化が進められていることを考えると 釈然としない気持ちも残る。恒常的なラッシュ 違法ストによる遅れや運休 事故によるダイヤ混乱のさいの処理の不手ぎわ…など鉄道側に義務の不履行が目立つだけに 利用者だけが規則をきびしく要求されるのは片手落ちだという声もある。

考えてみれば 鉄道にかぎらず最近では‘強者の論理’がまかり通りすぎるようだ。国家権力しかり 大企業の商法しかり… 社会の高度成長を背景に‘サービス’に名を借りて強者の商魂が横行し そのかげで真のサービスが糊塗されている例は少なくない。

鉄道にとって真のサービスは‘安全・正確な運行’である。快適さも大切なサービスであろうが 鉄道も私たち利用者も ‘サービス’という言葉をあまりにも安易に使いすぎてはいないだろうか。鉄道の真のサービスとは何か——本号はその問題提起である。

目次 特集●鉄道のサービスを考える

- 7 レールウェイ・レビュー オレンジ作戦を見る
- 8 ニュースファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)
- 14 車両基地(国鉄動力車の新製・改造・転属・廃車)

特集 鉄道のサービスを考える

- 15 主力電車の設備サービスを採点する(第1部カラー)
- 27 鉄道のサービスとは何か 岡 並木
- 30 ‘サービス’の原点をさぐる 編集部
- 34 東京七大私鉄の運賃とサービス 吉村忠晃
- 42 鉄道サービス百年史 種村直樹
- 51 主力電車の設備サービスを採点する(第2部本文)
福田宏之／金山二郎／黒羽充伴／茂木 裕
大島 肇／山田 亮／横江又洋

★R J技術解説シリーズ⑭

- 76 リクライニング・シートの構造 高林盛久
- 78 鉄道のサービス——私はこう思う
佐々木桔梗／宮澤孝一／木村一男
- 80 飛行機・船・バスのサービスをみる 編集部
- 83 鉄道のサインとシンボル 岡田徹也
ドキュメント★列車追跡⑧
- 98 急行ビュフェのサービス拝見 松尾定行

- 104 毎日5,000トッ！いそがしいミニ軌道 本島三良
☆レールウェイ・トピックス
- 110 アフリカの新しい動脈 タンザン鉄道
- 112 大井川‘SL保存鉄道’出発進行！
- 126 京阪電鉄に新5000系デビュー
- 113 レールファン・ノートから⑭ 鉄道の映像記録 本島三良
- 路面電車再発見⑩
- 127 名古屋鉄道岐阜市内線・美濃町線／豊橋鉄道豊橋市内線
日本路面電車同好会
- 134 ヨーロッパの鉄道と列車の旅③② イギリスの鉄道③
山之内秀一郎
- 114 ブルー・トレイン
- 120 ワイドレンズ／新刊紹介／魚眼／ズームレンズ／新聞記事ざっくばらん／海外鉄道研究会コーナー／タブレット／読者論壇／R Jクイズ／次号予告／乗務員室

表紙 現代の‘顔’

永崎祐之

特大号 特価 550円 円60円

RAILWAY JOURNAL 鉄道ジャーナル

1976・11 NO.117 Vol.10 NO.12

●昭和51年 9月20日印刷

●昭和51年11月 1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

金子俊夫／塚本雅啓／松尾定行

白井朝子／宮原正和

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6

日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京 9-82820

●印刷所 凸版印刷株式会社



雑誌やテレビで関東と関西の気質を対比させた企画に時おりお目にかかる。両者を無理に対決させるヤラセが鼻につくこともあるがかなり異質なものは確かだ。関西の特色は たとえば古いところでは実用性を重んじる。新しいところでは 大阪市内の大通りに緑の並木があったり 徹底した一方通行を実施しているように東京とおなじ大都会でありながらいちおう人間尊重の基本姿勢がみられること。経済の高度成長期に革新市政だった理由にもよるのだろうが ‘生活’を大切にする伝統が息づいているのは事実である。鉄道の場合はさらに 昔から私鉄の競争が激しかったこともあってすべての面に ‘サービス’への配慮がうかがわれるのが 最大の特色であろう。適度な そして真の意味でのサービスは よい意味での競争となり 発展への原動力となる。関西の鉄道の魅力は このへんにあるのではないだろうか。従来の地方特集とは企画を変えてこうした観点をふくめて関西の鉄道にスポットをあててみた。

目次 特集●‘私鉄王国’関西の鉄道<第1部>

- 7 レールウェイ・レビュー 監査報告書を読んで
- 8 ニュースファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)
- 14 車両基地(国鉄動力車の新製・改造・転属・廃車)

——特集 ‘私鉄王国’関西の鉄道<第1部>——

- 15 華麗なる行進
- 27 目でみる大阪の鉄道 編集部
- 36 大阪電車図絵 野村 董
- 44 あずま男‘京電車’に乗る 吉村忠晃
- 51 関西私鉄の主力電車をみる 編集部
- 62 大阪の地下鉄——その1 宮本政幸
- 67 関西私鉄277*。日帰りの旅 山村定雄
- 77 京阪神を軸とした優等列車のあゆみ〔上〕 種村直樹
- 84 ライバル決戦——その1 京阪神間スピードレース 野村 董

- 87 新幹線電車のモデルチェンジ 柿沼博彦
- 90 新‘ブルー・トレイン’登場! (オロネ25) 田中 宏
(オハネ25)
- 98 トップ・アングル
- 101 レールファン・ノートから⑮ 鉄道の本集め 本島三良
- 110 ヨーロッパの鉄道と列車の旅(33) イギリスの鉄道④ 山之内秀一郎

●路面電車再発見

- 118 札幌市交通局／函館市交通局 日本路面電車同好会

- 102 } ブルー・トレイン
- 108 }

ワイドレンズ／新刊紹介／SL映画コーナー／魚眼／ズームレンズ／新聞記事ざっくばらん／伝言板／タブレット／鉄道友の会からのお知らせ／RJクイズ／海外鉄道研究会コーナー／次号予告／乗務員室

表紙

関西私鉄の新旧の顔

山村定雄

(大阪市地下鉄と近鉄)

定価 480円 円60円

RAILWAY JOURNAL 鉄道ジャーナル

1976・12 NO.118 Vol.10 NO.13

●昭和51年10月20日印刷

●昭和51年12月1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

金子俊夫／塚本雅啓／松尾定行

／宮原正和

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6

日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京9-82820

●印刷所 凸版印刷株式会社



12月号の編集が追込みに入っている今年末までまだ2ヵ月近くを残しているが、昭和51年の鉄道界をふり返ってみると、低調さの目立つ年であった。とくに国鉄では赤字問題をはじめ、暗い話題が多かったのが印象に残る。

まず1月、国鉄は旅客運賃50.4%、貨物運賃53.9%（いずれも平均）の大幅値上げを申請したが、通常国会で審議未了となり、国鉄が希望した6月1日実施は見送りとなった。この結果、国鉄は深刻な資金不足に当面し、なりふりかまわぬ全社的な経費節減やポスターによる赤字キャンペーンに努力しているが、焼石に水、事実上の破産という窮地に追い込まれた。また事故の発生も多く、1月の特急「いしかり」の大幅運休をはじめ、2月＝根室本線で特急「おおぞら」脱線転覆、5月＝総武本線で貨車脱線、8月＝山陰本線で急行「石見1号」脱線、山陽本線で貨車脱線、10月＝函館本線で貨車脱線など、大事故が相次いだ。

一方、明るい話題ではSL全廃による動力近代化の達成と、長崎・佐世保線の電化完成、寝台特急の衣がえなど、この一年は国鉄にとって試練の年だったといえよう。

目次 特集●関西の鉄道<第2部>

- 7 レールウェイ・レビュー
- 8 ニュースファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)
- 14 車両基地(国鉄動力車の新製・改造・転属・廃車)

特集 関西の鉄道<第2部>

- カラーグラフ
- 15 大阪駅24時間 永崎祐之
- 28 京阪神を軸とした優等列車のあゆみ〔下〕 種村直樹
- 40 大阪の地下鉄——その2 宮本政幸
- 47 ライバル決戦——その2 名阪間スピードレース 野村 董
- RJ技術解説シリーズ
- 54 京阪3000系の自動座席転換装置 土居 毅
- 56 関西の都市と鉄道 宮本政幸
- 60 栄光と悲運の旅路 平野雄司

特別企画★速報!! 10月ダイヤ改正の表情

- ドキュメント★列車追跡⑩
- 64 新特急<北アルプス>立山への道 松尾定行
- 76 10月ダイヤ改正の表情 編集部

- レールウェイ・トピックス
- 82 名古屋市地下鉄3000系デビュー 徳田耕一
- 84 オレンジオペレーション始末記 須田 寛
- 88 国鉄はなぜ赤字なのか 種村直樹
- ‘名列車’誌上リバイバル⑦
- 92 <あさかぜ>の20年——その3 編集部
- 99 トップアングル
- 105 レールファン・ノートから⑩ 師走と年賀状 本島三良

緊急特別企画<京阪100年号>少年死亡事故を考える

- 路面電車再発見
- 115 広島電鉄市内線 日本路面電車同好会
- 122 ヨーロッパの鉄道と列車の旅(34)イギリスの鉄道⑤ 山之内秀一郎

- 106 ブルー・トレイン
- 112

ワイドレンズ／新聞記事ざっくばらん／魚眼／鉄道友の会からのお知らせ／RJクイズ／ジャーナル編集室／次号予告／乗務員室

表紙 鉄路の年輪

栗田正一

東山トンネル(山科口)を出る特急<雷鳥>

定価480円 円60円